

プロペラ機の操縦席に座り、操縦かんを動かして笑顔を見せる子どもたち＝菊陽町



操縦席 気分も上昇

崇城大キャンパス
子どもら仕事教室

パイロット体験 満喫

飛行機の魅力を伝えようと、日本航空技術協会(東京)は13日、菊陽町の崇城大空港キャンパスで、パイロットや航空整備士の仕事を紹介する教室を開いた。子どもたちはプロペラ機の操縦席に座ってパイロット気分を満喫した。

同協会は全国各地で教室を開いており、崇城大やソラシドエアが協力し、県内では初めて実現した。

6～18歳の児童生徒と保護者の約70人が参加。ソラシドエアのパイロット、整備士から仕事内容の説明を受けた後、格納庫にある本物のプロペラ機へ。崇城大の教官に飛行機を上昇、下降させる方法を教わり、操縦かんや足元のペダルを操って尾翼などを動かした。

児童はコックピットに並ぶ計器を見つめ、操縦かんを引いて大空を想像した。大津町の室小1年の田代渉君は「自分で翼を動かして楽しかった。将来はパイロットになりたい」と感激していた。



(園田琢磨)